

学校第三者評価報告書

～ 学校評議員会議事要旨より～

愛媛大学附属高等学校
作成日 平成23年 3月 6日

評議員会実施日時：平成23年3月6日（日）13時00分～15時00分

1 生徒募集

(1) 連絡入試

- ・ 連絡入試の出願条件については、再検討が必要である。
- ・ 教育学部附属中学校の保護者に対する説明を十分に行い、理解の徹底を図ることが必要である。
- ・ 保護者の意識は「良い大学に入れば良い就職ができる」という偏差値偏重となっている。今後の附属高等学校の取組に期待している。

(2) 広報活動

- ・ 少子化の影響や中等教育学校の設置等による県立学校離れが進む中、附属高等学校もどんどん中学校に出向いて学校説明会を実施するなど、生徒募集に力を入れるべきである。

2 教育指導

(1) 教育課程

- ・ 「附属高校」＝「愛媛大学進学」というイメージが強い。広報誌 **Line** の写真 (p.3・4) は衝撃的である。「幼稚園から大学まで、愛媛の子は愛媛で育てる」というメッセージを強く感じる。
- ・ 教育課程を進学校のように変えていく必要があるのではないか。急には無理でも、少しずつ軌道修正すべきである。
- ・ 愛媛大学に限らず、他の大学へも進学できる力をつけることのできる学校になれば、さらに注目されるであろう。

(2) 進路状況

- ・ 他の総合学科の高校の進路先は、大学ではなく専門学校にシフトしてきている。附属高等学校は、総合学科のままで良いのか。
- ・ 愛媛大学への進学者が目標の数字（100人）に達しなかったことについては、今後実現に向けて努力すべきである。

3 高大連携

- ・ 生徒の発表態度は堂々としており、愛媛大学の著名な先生方の指導を受けて学ぶことのできる附属高等学校の生徒は、非常に幸せである。
- ・ 高大連携教育は、高等学校教育において非常に重要である。
- ・ 高大連携教育において、「愛媛大学に進学して、あの先生に学びたい」という思いを育てて欲しい。

4 施設・設備

- ・ 耐震工事等、必要な改修を進めるべきである。
- ・ 生徒達が安心して勉強できる環境整備を推進することが、第一である。